

### 37 第三高等中学校医学部講義(第三報)

大 滝 紀 雄

私は昭和四十六年と平成二年の日本医史学会総会で、表題の講義ノートを二度にわたって報告した。当時は三十七冊のノートに基づいたが、つい最近新たに二十三冊のノートが発見され合計六十冊となり、明治二十五年前後、岡山大学医学部の前身校での講義内容がほぼ全面的に解明された。

すでに述べたとおり、田宮靈一ノートは明治二十一年から二十五年までのもので、三十七冊の内容は、『日本医史学会雑誌』三十六巻一号に記した。今回追加された二十三冊は、逗子葉山の田宮家に秘蔵されていたもので、田宮家の子孫から私に初めて示されたものである。前回と同様「田宮氏蔵書」と印刷された用箋に書かれたもの

が大部分で、三冊が前回と同形式の仮綴じ、一冊が印刷、他の十九冊はこよりで簡単に綴じたままのものである。内容的に前回発表のものと重複するものは一冊もなく、私はこれまで全部で四十五冊くらいと推定していたが、六十冊となり、これだけ膨大で内容の充実した資料は全国でも非常に稀なものと思われる。

前回発表の科目で追加されたものは、佐藤直 化学 一 (五)、富永伴五郎 生理学 二(六)、内科各論(呼吸器、伝染病)二(四)、更井久庸 小児科 一(二)、外科各論二(七)、大西克知 眼科 一(三)の九冊。ただし括弧内は前回を含めた総合計冊数である。

これまでの課目になく新たに登場したものは、胎生学二、善悪因果経(仏説)一、電気療法 一、法医学 続稿とも 一、桂田病理総論 二、梶田衛生学 一、更井精神病 一、坂田皮膚病学 二、熊谷省三産科学(出産学)二、熊谷婦人科学 一 の十四冊である。

六十冊中、ただ一冊だけ活版印刷のパンフレットが見られる。拓植宗一先生講述『胎生学』がそれで、本文は三十三ページである。書頭に次のように記されている。

一 此書ハ我第三高等中学校医学部教諭拓植先生ノ講述スル所ノ「メモランド」ニシテ生等筆記ノ勞ヲ省カン為メ活字ニ附スル所ナリ決シテ公売スル者ニ非ス……

明治二十二年六月 附版者 江良郁次

講義はおおむねこれに従つて進められたのであろう。

しかし田宮靈一と記した本書の欄外には細事の赤い書き込みでびっしり埋められている。

『岡山大学医学部百年史』を見ると、明治二十二年から二十三年初頭にかけての学課には法医学、精神病学、衛生学、電気療法などは記されていない。したがつてこれらの課目はその後のもので、比較的初期の学問であつたと考えられる。

内科各論呼吸器篇は医学部長菅之芳口授と記され、胸膜炎、胸水、胸血、肺気腫、肺水腫、肺炎、肺結核が論じられている。本巻にアクチノミコジスが放散黴菌病として記載されているのは驚きである。

内科各論伝染病編は井上先生口授で、腸チフス、発疹チフス、再帰熱、麻疹、しょうこう熱、風疹、狂犬病、流行性脳脊髄膜炎、日本洪水熱が記されている。伝染病

編に旋毛虫症、ジストマが上げられているのは奇異な感じがする。明治期には伝染病の原因である細菌や原虫などが次々に発見された時期でもあり、興味深い。細菌学はこの時期まだ独立した課目として取り扱われていない。

(神奈川県横浜市)